

会報 “旧鈴木家屋敷保存会”



(第6号)

平成29年9月2日発行

編集発行

NPO法人「旧鈴木家跡地活用保存会」

浜松市東区中郡町 699-1 村木方

理事長 村木正彌

Tel 053-434-1877

携帯 090-1234-1877

本号は、第5号（6月18日発行）以降の活動を報告するものです。（川崎）

(1) 交流拠点づくり委員会の報告

第16回までの委員会（8月23日）にて、検討をお願いしているS社より、私たちの意見も取り入れて案が示されました。

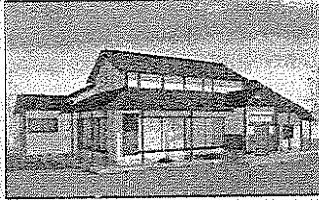
・母屋…現状の趣きを残した上で、二階の部屋を廃止して平屋建てとする。

・離れ…改修は保留とし、今年度中に結論を出す。

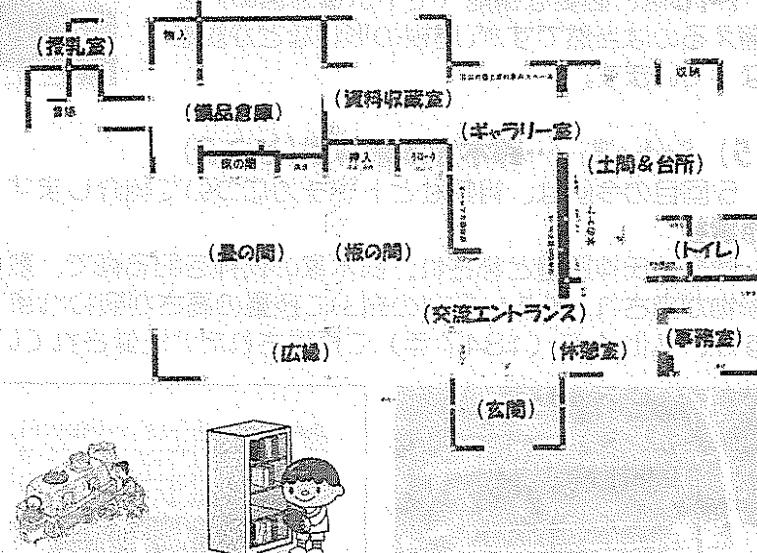
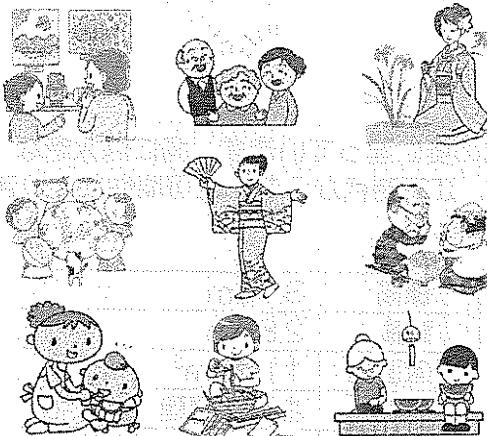
(現状の母屋)



(改修後の外観イメージ)



以上を前提に、母屋について9月中に案をまとめ、10月頃には、想定する機関に助成金の申請をする予定です。



上の絵は、私たちが思い描いている、母屋を使った夢の数々です。しかし、資金がなければ夢のままです。夢を夢のまま終わらせないために、さまざまな形で資金の調達を考えています。「はままつ夢基金」もその1つですが、夢の実現のために多くの方々の応援を願っています。

はままつ夢基金とは 浜松市よりの紹介…… (今回申請するということではありません)

市民及び各種団体が、互いに支え合う地域社会を目指し、寄付文化の機運を作り出す方策として浜松市が設置したものです。

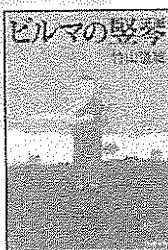
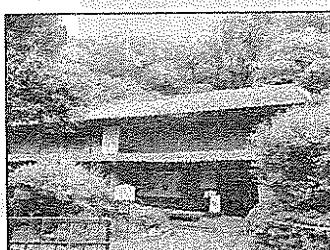
皆さんから頂いた寄付金を、浜松市を拠点として活動する団体に補助金として交付する仕組みになっています。

あなたの寄附が市民活動を育てる

(浜松市市民協働推進基金)

(2) 田代家の見学をしました

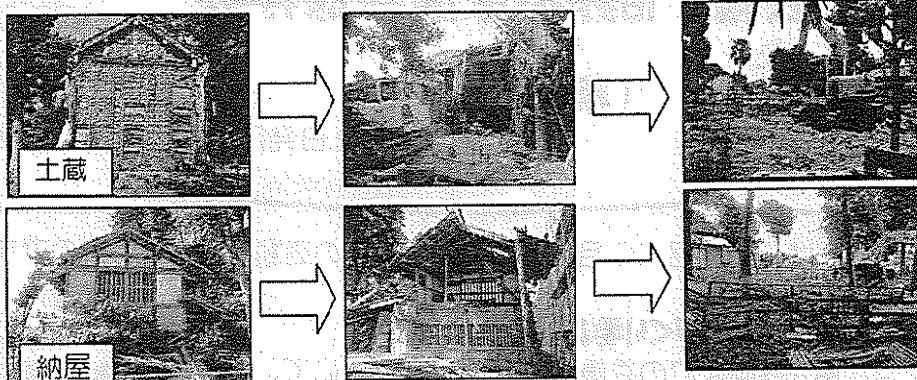
勉強の一環として、二俣町にある田代家を見学しました。徳川家康の遠州計略に協力した功績により、天竜川の筏問屋として君臨して来ました。建物は登録有形文化財になっています。また「ビルマの豊饒」で知られている文学者・竹山道雄の父親は田代家の出身とのことです。



(3) 土蔵と納屋が解体されました

前号でも予告しましたが、5~6月にかけて解体されました。併せ敷地の裏門や母屋の板塀なども撤去されました。

跡地は公園の一画として整備されます。崩壊の危険があるため、計画通りの処置ですが、鈴木家の歴史が1つ…2つと消えて行くのは、ショッピリ寂しい気がします。



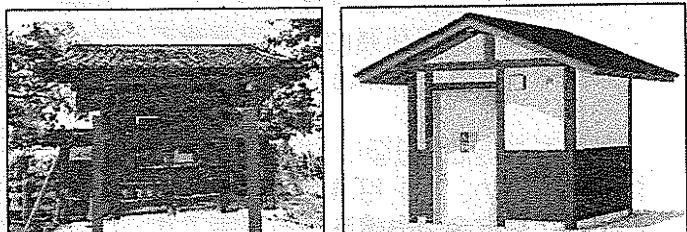
(4) 表門の修理とトイレの設置が行われます

今年度の事業の1つとして、現在浜松市にて、表門の修理とトイレの設置が検討されています。

表門は、美観・強度・機能などの兼ね合いで検討されています。

トイレは、必要な機能（上下水道を含め）を備えるのは当然ですが、屋根の形状などが課題になっています。

(検討中のイメージ図の一例です)

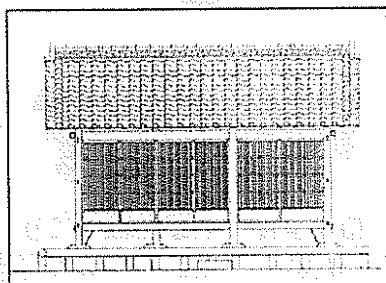
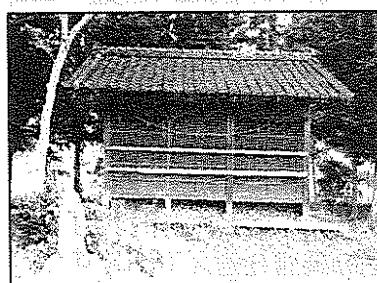


(5) シリーズ……鈴木家屋敷探求(その5)

5回目の今回は、祖靈社とトーチカについて紹介します。

祖靈社

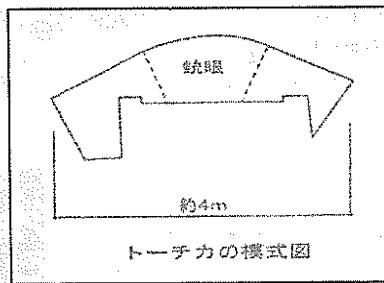
建屋は氏神覆屋と称され、鈴木家の氏神を祀る祠で、敷地の奥に建っています。祠には入念な彫物が施され、軒先や屋根の細工に技量の高さが窺われます。江戸時代からあった可能性がありますが、弘化4年（1847年）に再建されたと記録されています。



棟高	3.76m
軒高	2.87m
床面積	11.54m ²
構造	木造平屋建
基礎	タタキの上に 玉石積みの盛土
屋根	切妻屋根 本瓦葺き

トーチカ

日本軍の敗色が濃厚になった1945年初めに造られた、鉄筋コンクリート製の頑丈な「野戦築城」と言われるもので、笠井街道を北上する米軍を迎撃するために作られ、祖靈社の横手に、半分埋まった状態で残っています。浜松市には、他に半田町の環状線沿いに残るのみで、悲しくも……忘れてはならない戦争遺産の1つです。（近いうちに、周辺を整備する予定です）



参考：半田町のトーチカ

特報！ 現在、鈴木家に関する講演会・見学会・展示会を計画しています。決まり次第、ご案内します。乞うご期待！

以上